

Attracting Tomorrow



2021年3月期通期決算説明会

TDK株式会社
広報グループ
2021年4月28日

- 2021年3月期 連結業績概要
専務執行役員 山西 哲司
- 2022年3月期 連結業績見通し
代表取締役社長 石黒 成直

2021年3月期 連結業績概要

専務執行役員
山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2021年3月期通期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私から連結業績概要についてご説明します。

2021年3月期 通期決算のポイント

Attracting Tomorrow 

米中対立やコロナ禍により世界経済が減速も、第2四半期以降の社会経済活動、生産活動の再開によるエレクトロニクス需要の回復基調が継続。DX、EX関連需要が期初想定以上に拡大し、売上高・営業利益とも過去最高を更新*。

●売上高は前期比8.5%増、営業利益は前期比13.9%増

- 第2四半期より急回復した自動車市場向けの受注が引き続き好調。受動部品を中心に販売が拡大。
- ICT市場向けは、DX関連需要が好調に推移。PC、タブレット、5Gスマートフォン向けに二次電池、受動部品、センサの販売が拡大。
- コロナ禍における短期的収益改善施策及び需要動向変化を見据えた拠点再編等の資産効率向上施策を第4四半期に実施。

*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

まず決算のポイントです。2021年3月期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大や深刻化した米中対立等の影響を大きく受けましたが、第2四半期以降各国において社会経済活動や生産活動が徐々に再開されたことに伴い、エレクトロニクス需要の回復基調が続きました。特にDX(デジタルトランスフォーメーション)やEX(エネルギートランスフォーメーション)関連の需要が期初想定以上に拡大、旺盛な受注に適時対応したことによって、前期比で売上高は8.5%の増収、営業利益は13.9%の増益となり、売上高、営業利益とも過去最高を更新することができました。

第2四半期より急回復した自動車市場向けの受注は引き続き好調に推移し、xEVやADAS等自動車の電装化の加速も相まって受動部品を中心に販売が拡大しました。またICT市場向けではDX関連需要が期初より好調に推移し、二次電池、受動部品、センサの販売がPCやタブレット、5Gスマートフォン向けに拡大しました。産業機器市場では再生可能エネルギー向け需要が増加し、EX関連需要回復も鮮明になりました。

エレクトロニクスを取り巻く環境は大きな変革期を迎えており、今後もDX、EXの潮流はますます加速して行くことが想定されます。そのような成長の機会を確実に捉え、より高効率で競争力のある事業運営を行っていくため、需要動向変化を見据えた拠点再編や設備の減損等の資産効率向上に向けた構造改革を第4四半期に実施しました。

2021年3月期 連結業績概要

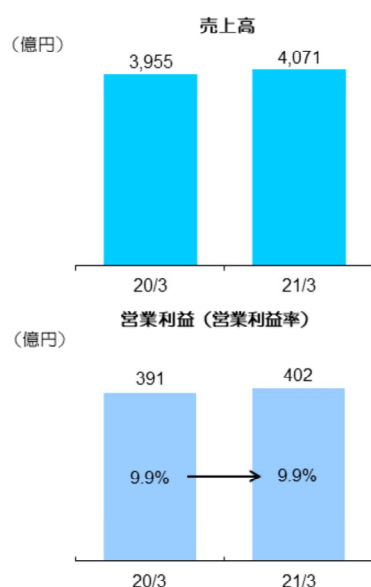
Attracting Tomorrow 

(億円)	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	13,630	14,790	1,160	8.5
営業利益	979	1,115	136	13.9
営業利益率	7.2%	7.5%	+0.3 pt	-
税引前利益	959	1,219	260	27.1
当期純利益	578	793	215	37.2
1株当たり利益 (円)	457.47	628.08	-	
為替	対ドルレート (円)	108.82	2.5%の円高	
	対ユーロレート (円)	120.92	2.3%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約217億円の減収 営業利益：約81億円の減益		

次に業績概要です。対ドル等の為替変動により、売上高において約▲217億円の減収、営業利益において約▲81億円の減益影響がありました。それらを含み、売上高は1兆4,790億円、前期比1,160億円、8.5%の増収、営業利益は構造改革等一時発生費用約▲176億円も含み、1,115億円、前期比136億円、13.9%の増益、税引前利益は1,219億円、当期純利益は793億円、1株当たり利益は628円8銭となりました。

為替の感応度は、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で前回と同様年間約12億円、円とユーロの関係において約2億円と試算しています。

2021年3月期 各事業の状況（受動部品事業）



売上高 4,071億円（前期比2.9%増）
営業利益 402億円（前期比2.8%増）

- セラミックコンデンサ
 - ↳ 前期比で増収減益。
 - ↳ 自動車市場向け販売が増加。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - ↳ 前期比で増収、収益が改善。
 - ↳ 産業機器市場向け販売が増加。
- インダクティブデバイス
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ ICT市場向け販売が増加、産業機器市場向け販売が減少。
- 高周波部品
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ ICT市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - ↳ 前期比で増収増益。
 - ↳ 産業機器市場向け販売が増加。

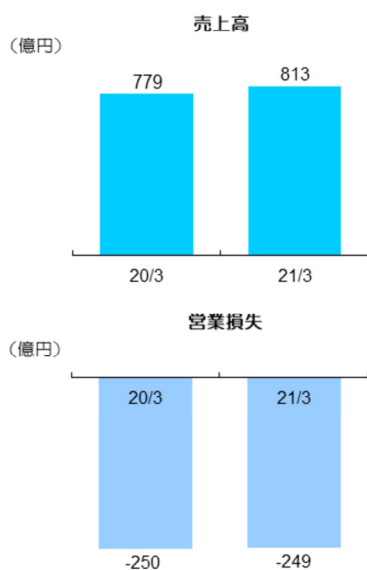
続いて、通期のセグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントの売上高は4,071億円、前期比2.9%の増収となりました。自動車市場の需要が第2四半期から急速に回復、ICT市場の需要も5G関連を中心に堅調に推移し、産業機器市場における需要も再生可能エネルギー関連等が増加した結果、すべての重点市場で売上が増加しました。営業利益は402億円、前期比2.8%の増益、第4四半期に拠点再編等の一時発生費用を約37億円計上したことにより、営業利益率は前期実績と同水準の9.9%となりました。

事業別では、セラミックコンデンサが、第1四半期におけるロックダウンによる自動車市場向け需要減少の影響が残り、増収ながら減益となりました。アルミ電解コンデンサ・フィルムコンデンサは、再生可能エネルギー向けを中心に産業機器市場向け売上が大きく増加し、収益も改善しました。インダクティブデバイスは、自動車市場向け需要の増加に加えスマートフォン向け等ICT市場向け販売が増加し、増収増益となりました。高周波部品は5G関連需要が好調に推移し増収増益となりました。圧電材料部品・回路保護部品は、再生可能エネルギー関連等の産業機器向けの販売が増加、また巣ごもり需要によりゲーム機向けや家電向けの販売も増加し、増益となりました。

2021年3月期 各事業の状況（センサ応用製品事業）

Attracting Tomorrow **TDK**



売上高 813億円（前期比4.4%増）
営業損失 △249億円（前期比一%減）

● センサ

- ▮ 上期は自動車市場向け販売の落ち込みが大きく前期比で減収も、下期は需要回復及び顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大で大幅増収となり、4Qに最高売上。
- ▮ 収益は4Qに一時費用を計上も、開発費効率化やコスト改善施策の効果により改善。
- ▮ TMRセンサは、ICT市場向け販売が大幅に拡大し増益。
- ▮ MEMSセンサは、モーションセンサの顧客基盤の拡大及びMEMSマイクロフォンの新規ビジネス立上げにより販売が拡大。

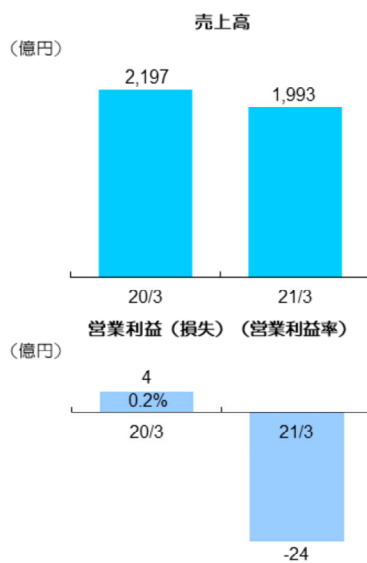
センサ応用製品セグメントの売上高は813億円、前期比4.4%の増収、前期と同水準の営業損失となりました。

上期において自動車市場向け販売が大きく減少したものの、下期には自動車市場の需要回復や、戦略製品の顧客基盤とアプリケーションの拡大効果によって売上を大きく挽回し、第4四半期は四半期ベースで最高の売上水準に達しました。

第4四半期に拠点再編や資産処分で約41億円の構造改革費用を計上しましたが、開発効率化やコスト改善施策効果により、赤字ながら全体的に収益改善が進みました。TMRセンサはICT市場向け販売の拡大によって大幅に増収となり、収益を大きく伸ばしました。MEMSセンサは、モーションセンサの顧客基盤拡大、MEMSマイクロフォンの新規ビジネス立上げにより、売上が拡大しました。

2021年3月期 各事業の状況（磁気応用製品事業）

Attracting Tomorrow **TDK**



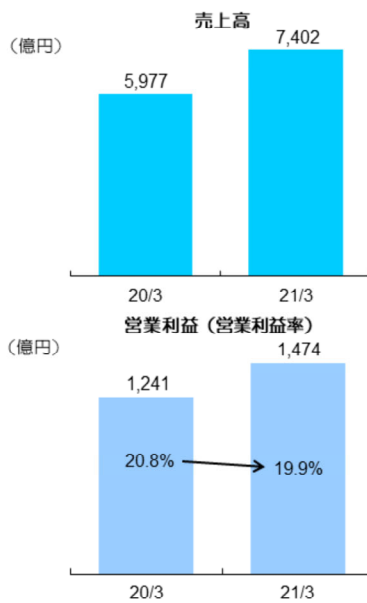
売上高 1,993億円（前期比9.3%減）
営業損失 △24億円（前期比一%増）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
 - ↳ HDDヘッドは主要顧客の工場閉鎖（ロックダウン）により前期比で大幅な減収減益、磁気応用製品セグメント全体で収益が悪化。
 - ↳ HDDサスペンションはμDSAの販売拡大で前期比で増収増益。
- マグネット
 - ↳ 自動車市場向けの販売が減少し前期比で減収。収益は、一時費用の減少により損失額縮小。

磁気応用製品セグメントの売上高は1,993億円、前期比▲9.3%減収、▲24億円の営業損失となりました。HDDヘッドにおいては、第1四半期に発生した主要顧客の工場閉鎖の影響で販売数量が大幅に減少したことに加え、新製品の投入がなかったことにより従来製品の売価が下がった影響もあり、収益が大幅に悪化しました。一方HDDサスペンションは、主要顧客のデータセンター向けニアラインHDDが好調に推移し、μDSA製品の販売拡大により増収増益を確保しました。マグネットは再生可能エネルギー関連等産業機器市場向け販売が増加したものの、上期の自動車市場向け需要減少の影響により減収となった一方、前期計上した減損損失の減少等により損失額は縮小しました。

2021年3月期 各事業の状況（エネルギー応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 7,402億円（前期比23.8%増）
営業利益 1,474億円（前期比18.8%増）

● エナジーデバイス（二次電池）

- ⌢ 前期比で増収増益。パワーセル新製品の立上げに向け先行投資を実施したため、増益率が若干低下。
- ⌢ モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売が好調に推移、特にタブレット、ノートPC向けは大幅増。
- ⌢ ゲーム機向けやミニセル製品の販売が拡大。
- ⌢ 家庭用蓄電システム、電動二輪車向け等のパワーセル製品の販売が拡大。

● 電源

- ⌢ 産業機器用電源は前期比で増収増益。
- ⌢ EV電源は減収。

2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・9

エネルギー応用製品セグメントの売上高は7,402億円、営業利益は1,474億円、前期比23.8%の増収、18.8%の増益となりました。二次電池においてパワーセル新製品の立上げに向けた先行投資を実施したため、売上の増加に対して営業利益の増益率は若干低下しました。

二次電池は、スマートフォン、タブレットやノートPCといったモバイル用途向け販売が期初から好調に推移し、特にタブレット、ノートPC向けはリモート需要の拡大により大きく売上を伸ばしました。またゲーム機向けやミニセル製品の販売も拡大、さらに今後の成長を期待している家庭用蓄電システム、電動二輪車向け等のパワーセル製品の販売が本格化し、前期から大きく売上を伸ばしました。

電源は半導体製造装置等産業機器市場向け需要回復により増収増益を確保しました。EV電源においてはDC-DCコンバータの売上が着実に伸びましたが、インバータの売上減少により減収となりました。

営業利益増減分析

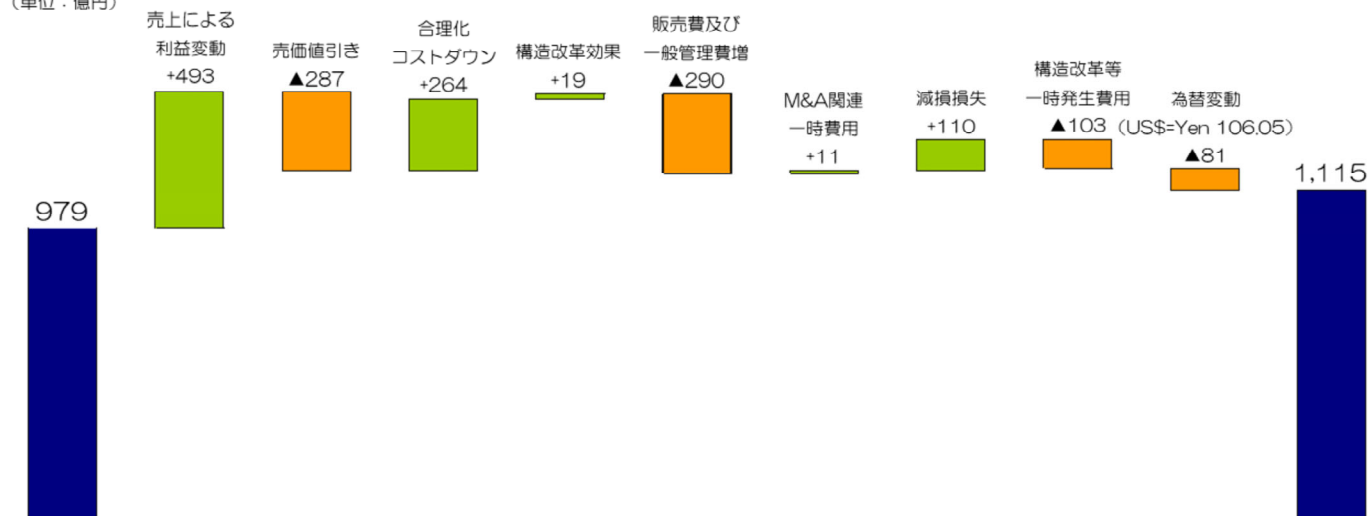
Attracting Tomorrow 

2020年3月期
979億円

営業利益 +136億円

2021年3月期
1,115億円

(単位：億円)



2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・10

続いて、営業利益136億円増益の増減分析です。二次電池を中心とした売上拡大による売上数量増加で493億円の増益効果となりました。売価値引き影響約▲287億円があったものの、合理化コストダウン効果約264億円、構造改革効果約19億円で吸収しました。InvenSenseの買収関連費用は約11億円減少、二次電池の事業拡大に伴う販売管理費やパワーセル開発加速による開発費増加、また前期まで発生していたフィルターフィーの受け取りが終了したことで販売管理費が約▲290億円増加しました。前期約183億円の減損損失が当期約73億円となり前期比約110億円の損失減少、拠点再編・資産処分等の一時費用の発生により約103億円の減益、為替変動による減益約▲81億円で、トータル136億円の増益となりました。

2021年3月期 セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow 

	(億円)	2020年3月期 第4四半期 (A)	2021年3月期 第3四半期 (B)	2021年3月期 第4四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	377	419	443	66	17.5	24	5.7
	インダクティブデバイス	330	390	390	60	18.2	0	0.0
	その他受動部品	263	285	306	43	16.3	21	7.4
	受動部品合計	970	1,095	1,139	169	17.4	44	4.0
	センサ応用製品合計	187	230	239	52	27.8	9	3.9
	磁気応用製品合計	518	559	546	28	5.4	△ 13	△ 2.3
	エナジー応用製品合計	1,183	1,954	1,873	690	58.3	△ 81	△ 4.1
営業利益	その他	145	119	125	△ 20	△ 13.8	6	5.0
	合計	3,004	3,957	3,922	918	30.6	△ 35	△ 0.9
	受動部品	67	134	95	28	41.8	△ 39	△ 29.1
	センサ応用製品	△ 70	△ 41	△ 85	△ 15	-	△ 44	-
	磁気応用製品	△ 115	42	△ 41	74	-	△ 83	-
	エナジー応用製品	147	428	250	103	70.1	△ 178	△ 41.6
	その他	△ 58	△ 30	△ 83	△ 25	-	△ 53	-
	小計	△ 30	533	136	166	-	△ 397	△ 74.5
	全社および消去	△ 84	△ 82	△ 95	△ 11	-	△ 13	-
	合計	△ 114	451	41	155	-	△ 410	△ 90.9
営業利益率		-	11.4%	1.0%	- pt	-	-10.4 pt	-
為替	対ドルレート (円)	109.05	104.50	105.87				
	対ユーロレート (円)	120.32	124.46	127.75				

2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・11

続いて、第3四半期から第4四半期のセグメント別売上高および営業利益の増減要因についてご説明します。

まず受動部品セグメントの売上高は第3四半期から44億円、4.0%の増収、営業利益は▲39億円、▲29.1%の減益となりました。売上高について、自動車市場向けと産業機器市場向け売上が増加した一方、ICT市場向け売上はスマートフォン向けがピークシーズンである第3四半期から季節性により減少しました。その結果、インダクティブデバイスと高周波部品はほぼ横ばいで推移した一方で、自動車市場向けと産業機器市場向け売上構成比率が高い他の事業は増収となりました。営業利益については、第4四半期に拠点再編費用等の一時発生費用約37億円を計上しましたが、その影響を除けばほぼ横ばいとなりました。

センサ応用製品セグメントの売上高は9億円、3.9%増収、営業利益は44億円の赤字拡大となりましたが、第4四半期に計上した拠点再編・資産処分の構造改革費用41億円を含んでいます。自動車市場向け需要回復に伴い、温度・圧力センサ、ホールセンサの売上が増加、MEMSセンサはモーションセンサが中国スマートフォン向けで増加、MEMSマイクロフォンも新規プロジェクトの売上が増加、一方TMRセンサはスマートフォン向けがピークシーズンである第3四半期から季節性により減少しました。営業利益は構造改革費用を除く実質ベースで比較すると、温度・圧力センサが増益、磁気センサはTMRセンサ売上減少により減益、MEMSセンサにおいてモーションセンサの赤字が縮小した一方、MEMSマイクロフォンの新製品開発費用が増加し、MEMSセンサ全体で赤字が若干増加しました。

磁気応用製品セグメントの売上高は▲13億円、▲2.3%減収、営業利益は▲83億円の減益となりました。第4四半期に減損損失や拠点再編費用等約50億円を計上、一方第3四半期にはHDDサスペンション事業に含まれる医療精密加工部品事業を売却し、売却益約24億円が含まれているため、差引で約74億円の一時発生費用が増加しており、実質的に第4四半期は第3四半期から約9億円の減益となりました。売上高は、第3四半期からHDDヘッドは販売数量が約8%増加したものの、売価下落やHDD組立販売の減少によりほぼ横ばいとなりました。HDDサスペンションはニアラインHDD向け販売が若干減少、またスマートフォン向けのサスペンション応用製品の販売が減少し、減収となりました。マグネットはほぼ横ばいで推移しました。営業利益は、一時発生費用を除く実質ベースでは、HDDヘッドにおける新技術ヘッド開発費の増加等により、セグメント全体で若干減益となりました。

エナジー応用製品セグメントの売上高は▲81億円、▲4.1%の減収、営業利益は▲178億円、▲41.6%の減益となりました。二次電池は、スマートフォン向け売上が季節性により減少、産業機器用電源は需要増加で増収、EV電源も増収となりました。営業利益は二次電池における販売数量減少、中国旧正月休暇稼働に伴うコスト増加、さらに材料の値上がり影響により、大きく減益となりました。産業機器用電源は若干増益、EV電源も赤字が縮小しました。

なお、その他に含まれるスマートフォン向けカメラモジュール用マイクロアクチュエータ事業において、中国大手得意先向け販売が大きく減少した影響で赤字が継続し、専用ライン設備について第4四半期に減損を計上した結果、損失が53億円拡大しました。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

2022年3月期 連結業績見通し

代表取締役社長
石黒 成直

石黒でございます。私から2022年3月期の見通しについてご説明します。

2022年3月期 通期見通しのポイント

Attracting Tomorrow 

●市場予測

- 世界経済はマイナス成長からプラス成長へ（W/W：-3.3%/FY2021 → 6.0%/FY2022）
- 米中対立、コロナ禍のリスクは残るが、ワクチン接種や経済対策により生産活動は継続回復
- 自動車、スマートフォンは前期比プラス、PC・タブレットも前期同水準の生産を予測
- モビリティの電動化、再生エネルギーへの転換促進により、ハイパワー二次電池の需要拡大

●DX・EXの潮流が加速、その潮流をしっかりと捉えるためアクセルを踏む年中核事業の更なる成長に向けた積極投資と組織・体制の整備を実行

- 成長投資：二次電池（パワーセル事業本格立上げ、インド市場拡大）
受動部品（xEV、ADAS、5G関連製品の生産能力拡大）
ヘッド・サスペンション（新技術市場投入、サスペンション応用製品拡大）
- センサ事業：これまでの拡販施策の成果を積み上げ、収益を大幅に改善
- 組織・体制：アンテナ機能強化（コーポレートマーケティング機能新設）
Time to Market短縮（製販一体ビジネスカンパニー）
モノづくり力向上、サステナビリティマネジメント

●株主還元

- 配当予想を10円増配し、年間190円に

2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・13

まず、見通しの前提となる市場の見方についてご説明します。2021年3月期において、コロナ禍により世界経済はマイナス成長を余儀なくされましたが、2022年3月期は6%レベルのプラス成長を前提としています。地政学的なリスクやコロナ禍によるリスクは残りますが、自動車やスマートフォンについては前期比でプラス、在宅需要で高水準となったPC・タブレットも、前期から大きく落ち込むことはないと考えています。また、モビリティの電動化や再生エネルギーへの転換等によりEXはさらに促進され、関連する受動部品や二次電池の需要を押し上げると考えています。

2022年3月期はこうしたDXやEXの流れをしっかりとらえ、大きく社会に貢献するためにアクセルを踏む年であると認識し、中核事業のさらなる成長に向けた積極投資を進めていきます。主要事業である二次電池においては、パワー系二次電池の本格的な立上げと、中国外の市場に対する重要拠点としてのインド生産の着実な立上げを実現します。5Gや自動車需要が大きく見込める受動部品においては生産能力拡大のための投資、ヘッド事業については、マイクロ波アシスト記録と熱アシスト記録ヘッドへの技術転換をチャンスと捉え、技術ならびに生産投資を実施していきます。センサ事業については、これまで地道に継続してきた顧客ベースの拡大と商品ラインアップの拡充がやっと成果として表れるようになってきましたので、2022年3月期は収益を大きく改善したいと思えます。

また、成長を実現するための組織と体制の改革・整備を実施し、Time To Market、Time To Volumeを短縮し、社会により大きな価値をお届けする体制を目指します。具体的には、コーポレートマーケティング機能の新設、製販一体のビジネスカンパニーの運営、デジタルテクノロジーを活用したモノづくり力の向上を目指します。社会の課題解決に貢献し、企業の透明性を担保するためのサステナビリティマネジメント、ガバナンスの強化にも引き続き最重要テーマとして取り組んでいきます。

株主還元については、収益の拡大に合わせて10円増配し、年間190円とすることを想定しています。

2022年3月期の市場予測

Production Trend (Unit: Mil. unit)	FY2021	FY2022 (Y o Y)
Automobile*	79	83 (+5%)
<i>therein</i> xEV	5.7	6.9 (+21%)
Smartphone	1,349	1,369 (+1%)
<i>therein</i> 5G Smartphone	300	470 (+57%)
HDD	250	243 (-3%)
<i>therein</i> Nearline	61	64 (+5%)
Notebook PC	214	212 (±0%)
Tablet	165	157 (-5%)

*Automobileは商用車を含む台数

次に、TDKの関係する主要なデバイスの需要前提についてご説明します。自動車については、商用車を含む2022年3月期の市場規模を8,300万台、前期比でプラス5%を前提としました。前期第2四半期以降急速に需要の回復が進み、足元ではコロナ禍前の水準まで回復していますが、自動車用半導体不足による自動車の生産調整も発生してきており、今後とも需要動向の見極めが大切だと感じています。各国自動車メーカーにおける環境車へのシフトは加速しており、xEVの市場は21%の増加を前提としました。

一方ICT市場を代表するスマートフォンは、13億6,900万台、前期比で1%プラスを前提としました。中国スマートフォンメーカーによる高水準な生産が見込まれていますが、中国市場における販売動向も注視しながら受注状況を見極めていく必要があると感じています。5Gスマートフォンの台数は引き続き拡大し、4億7,000万台と見えています。

その他、データセンターで使われるニアラインHDDは、HDD市場全体が縮小する中で唯一拡大を継続、また、在宅勤務・学習で広く利用されるであろうPCやタブレットについては、引き続き堅調に推移する前提としました。

総じて堅調な回復が見込まれていますが、今後のコロナ禍の影響や需要の実態に不透明な部分もあり、最終セットの販売動向を注視しながら生産体制を見極めていく必要があると考えています。

2022年3月期 通期連結売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow 

(億円)

セグメント 区分	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期予想 (前期比)
受動部品	4,071	+4～+7%
センサ応用製品	813	+22～+25%
磁気応用製品	1,993	+9～+12%
エナジー応用製品	7,402	+8～+11%
その他	511	—
合計	14,790	16,000

為替前提

為替レート \$/Yen
為替レート EURO/Yen

106.05
123.67

105.00
124.00

2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・15

以上を前提として、全体の売上高は、2021年3月期通期実績に対して約8%増の1兆6,000億円の見通しとしました。

受動部品セグメントは、自動車市場、特にxEV向け需要の増加、5G関連市場向け需要の増加を前提に、4%～7%の増加と見えています。

センサ応用製品セグメントは、自動車市場の需要増加に加え、TMRセンサやMEMSセンサの顧客ベースの拡大と製品ラインアップの拡充効果によって、22%～25%の売上成長を見込んでいます。コンベンショナル製品である温度・圧力センサと車載用のホールセンサは、需要回復によって売上増加が見込まれるのに加え、成長が期待されるTMR磁気センサ、MEMSマイクロフォン、MEMSモーションセンサについては、新規の顧客とアプリケーションの開拓が奏功し大きく成長することを見込んでいます。2021年3月期第4四半期は四半期ベースで最高の売上水準を確保しましたが、その水準を起点とし、新製品の売上拡大と需要増加による販売増加で、高い売上成長が実現できると考えています。

磁気応用製品セグメントは、HDDヘッドにおいて、2.5インチと3.5インチドライブの市場がさらに縮小することによりHDD総需要が約3%減少、それに伴いPC向けHDDヘッドや3.5インチドライブの受託生産数量も減少する一方、ニアラインHDDの需要が増加することで、ヘッド全体の数量は増加し売上が増加する見通しです。またマグネットについても、xEV用の新規プロジェクトの拡大による増収を見込んでおり、セグメント全体では9%～12%プラスの見込みです。

エナジー応用製品セグメントは、二次電池の販売がスマートフォン市場向けやPC・タブレット向けにおいて堅調に推移することに加え、パワーセルの売上が倍増すること、また電源事業では半導体製造装置向けやインフラ市場の需要が増加、さらにEV電源も承認済み新規プロジェクトの量産開始によって売上を伸ばすことを見込み、全体で8%～11%の増収を見込んでいます。

2022年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow 

(億円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 業績予想 (2021年4月発表)	業績予想対前期比	
			増減	増減率(%)
売上高	14,790	16,000	1210	8.2
営業利益	1,115	1,500	385	34.5
営業利益率	7.5%	9.4%	+1.9 pt	-
税引前利益	1,219	1,500	281	23.1
当期純利益	793	1,000	207	26.1
1株当たり利益(円)	628.08	791.62	-	-
配当金	中間：90円 期末：90円 年間：180円	中間：95円 期末：95円 年間：190円	-	-
為替	対ドルレート	106.05	105.00	-
	対ユーロレート	123.67	124.00	-
固定資産の取得 (設備投資)	2,124	3,000	876	41.2
減価償却費	1,403	1,600	197	14.0
研究開発費	1,270	1,400	130	10.2

2021年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/4/28・16

ご説明した世界経済動向および主要セクタの需要予測に基づき、2022年3月期の連結業績をご覧の通り予測しています。

為替レート的前提は対ドルで105円、対ユーロで124円とし、その結果売上高は1兆6,000億円、約8%の増収と予測しています。営業利益、税引前利益は1,500億円、当期純利益は1,000億円、1株当たり利益は791円62銭と見込んでいます。

2021年3月期の期末配当金はすでに発表している通り90円とし、年間配当金180円を予定しています。2022年3月期の配当金については中間・期末とも95円とし、年間190円を予定しています。

設備投資は3,000億円、減価償却費は1,600億円、研究開発費は1,400億円を見込んでいます。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2021/4q_1.html